

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。問いに字数の指定がある場合は、句読点や記号も一字に数えて解答すること。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(なお設問の都合上、本文の図およびそれに関する記述で省略している箇所があります。)

人間とは何か。さまざまな視点から考えてみた。チンパンジーの子どもたちには、人間の大人より優れた記憶能力があることもわかった。では、人間を他者と区別するもつとも大きな特徴はなんだろうか。究極的にいえば、それはイメージーション、想像するちから、ではないかと思うようになった。

チンパンジーは絵を描く。色を選ばせると、自分で適当に色を選ぶ。(中略)

しかし、基本的にはみんな同じで、チンパンジーは具象物を描かない。

チンパンジーは、食べ物のような報酬がなくても絵を描く。

1 白い紙に丸を描いておくと、それをなぞる。そこまでは私の研究である。そこで、齋藤亜矢さんという大学院生が<sup>①</sup>とても面白い検査を思いついた。丸をなぞるんだったら、似顔絵はどうかと考えた。

チンパンジーの似顔絵を与えてみると、やはり顔の輪郭をなぞった。片目がない絵とか、両目がない絵とか、輪郭のみとか、いろいろなバリエーションの似顔絵で七人のチンパンジーにやってもらった。すると、基本的にはなぐりがきをするか、輪郭をなぞった。

ところが、三歳二カ月の人間の子どもに、まったく同じことをやってもらうと、そこにはななものを描き込んだ。そこを<sup>②</sup>を描き入れる。二歳までの人間の子どもは、チンパンジーと大差はない。それが、三歳を超えると、図のよきな絵を描く。さて、これを、どう解釈したらよいだらう。

たぶん、チンパンジーはそこにあるものを見ている。一方、人間はそこにはななものを考える、と私は解釈した。そうだとわかると、先ほどのチンパンジーの子どもが示した優れた記憶がぜんぜん不思議ではなくなる。チンパンジーは、目の前にある、そのものを見ているのだ。たとえ一瞬とはいえ、たしかに目の前に出てきた。それを一瞬でしっかり見ている。人間はそうではなくて、そこにはななものに思いを馳せる。「おめめがないよ」と言う。そこが大きな違いなのだ。

そう考えると、もう一つ思い当たることがあった。

二〇〇六年九月二六日に、霊長類研究所にいるレオという当時二四歳の男性チンパンジーが、突然、首から下が麻痺した。診断は急性脊髄炎だった。さっそく、渡邊祥平さん、兼子明久さん、渡邊朗野さん、宮部貴子さん、林美里さんといった若い教員や獣医や飼育員が、大学院生たちをうまく組織して、レオのために、一日二四時間のカンゴ態勢を敷いた。

こうした若人たちのボランティアのおかげで、2 レオの命は支えられた。しかし、レオはぜんぜん動けない。そうすると、ひどい床ずれになる。腰や膝の皮膚が破れ、膿み、骨がむきだしになるほどのひどい床ずれだ。五七キロあった体重も三五キロにまで減った。痩せ細って床ずれで寝たままの彼の姿を見て、もしこれが自分だったら、とても我慢できないだろうと思った。

痛みの辛さに耐えられないのではない。「このまま生きていもしようがない。自分はどうなってしまうんだ?」  
というようなシンキョウになるだろう。将来に対するハ X V がもてず、ただ絶望感にさいなまれるだろう。

でも、このチンパンジーは、私であれば生きるハ X V を失うというような状況のなかでも、まったく変わらなかつた。めげた様子が全然ない。けっこういたずら好きな子で、人が来ると、口に含んでいた水をピュッと吹きかける、なんてこともする。キャツと言って逃げようものなら、すぐくうれしそうだ。(中略)

このレオの事例を見て、思い当たった。人間とは何か。きつと「想像する」という部分が違うのだ。「想像する」ということが人間の特徴だと思った。

チンパンジーは、「今、この世界」に生きている。だからこそ、瞬間に呈示注(3)された目の前の数字を記憶することがとても上手だ。しかし、人間のように、百年先のことを考えたり、百年昔のことに思いを馳せたり、地球の裏側に住んでいる人に心を寄せるといようなことはけっしてしない。

もつと短い時間・空間範囲はんいでなら、チンパンジーも想像することはある。道具を用意してからシロアリ釣りに向かうとか、種割りをする前に台石の向きを調整して水平になるようにするとか、短い時間の範囲では当然未来を予測する。でも、その広がり方は、一年先の収穫を見越して田植えをするといようなものではない。想像する時間と空間の広がり方が違う。それが私のとりあえずの結論だ。

今この世界を生きているから、チンパンジーは絶望しない。「自分はどうなってしまうんだろう」とは考えない。たぶん、明日のことさえ思い煩わづらつてはいないようだ。

それに対して人間はヨウイに絶望してしまう。でも、絶望するのと同じ能力、その未来を想像するという能力があるから、人間は△ X Vをもてる。どんな過酷かこくな状況のなかでも、△ X Vをもてる。

人間とは何か。それは想像するちから。想像するちからを駆使して、△ X Vをもてるのが人間だと思う。

(松沢哲郎「想像するちから」による)

注(1) 具象物：姿や形がはっきりしたもの。

(2) 図：ここでは図は省略する。

(3) 呈示：見せること。

問一 〓線部①～③のカタカナを漢字に直しなさい。

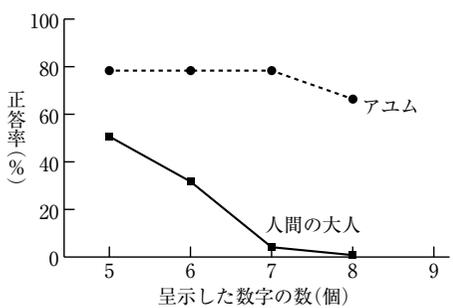
問二 本文中の□1・□2に入れるのに適当な言葉を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア せっかく    イ かるうじて    ウ あらかじめ    エ やはり

問三 〓線部(1)とありますが、どのようなことを行う検査ですか。本文中の言葉を用いて、わかりやすくまとめなさい。

問四 本文中の□に入れるのに適当な言葉を自分で考えて答えなさい。

問五 〓線部(2)とありますが、これはこの本文より前に述べた別の実験から筆者が考察した内容です。その実験内容とグラフを読んで、次の問いに答えなさい。



△実験内容▽

チンパンジーの「アユム」に0.21秒間、複数の数字を呈示して、「アユム」がいくつ覚えられるかを実験した。また同じ実験を筆者自らも被験者となつて行った。その結果を示したものが上のグラフである。

△問▽

上のグラフを読み取り、呈示した数字の数と正答率との関係について、チンパンジーと人間を比べて説明しなさい。

問六 ー線部(3)について、

(I) 「めげる」の意味を四字熟語で表したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 意気消沈 いきしやうちん      イ 自暴自棄 じぼうじき      ウ 五里霧中 ごりむちゅう      エ 支離滅裂 しりめつれつ

(II) 「レオ」がこのような様子であるのは、なぜだと筆者は考えていますか。解答欄の形式に従って三十字以内で答えなさい。

問七 ー線部について、チンパンジーと人間の想像のしかたはどのように違うと筆者は考えていますか。説明しなさい。

問八 本文中のハ X Vにはすべて同じ言葉が入ります。入れるのに適当な言葉を漢字二字で答えなさい。

問九 本文の文章構成の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 筆者は最初に問題提起し、異なる二つの事例を挙げて考察し、それぞれについての結論を述べている。  
 イ 筆者は最初に問題提起し、一つの事例とそれに対立する例を挙げて自分の出した結論を強調している。  
 ウ 筆者はまず問題提起して結論を述べた上で、その結論に至る道筋を出来事の時間順に挙げて説明している。  
 エ 筆者はまず問題提起して結論を述べた上で、二つの事例から導き出した考えを再度結論として述べている。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学五年生の三島由宇は学級委員である。政治家である祖父が危篤であるという連絡を受け、学校を休むことになったが、祖父の病状は大事には至らなかった。休み明けに登校した際、クラスの友達から声を掛けられ、休んでいる間に「由宇の祖父が亡くなった」とうわさになっていたことを知った。

「でもよかったー。由宇ちゃんが学校に来られて。だってさっそく私、ドレスのデザインを考えてきたんだもん」  
 うわさの恐ろしさについて考えていた由宇の耳に、南のはりきった声がかこえた。はっとして由宇が顔を上げると、彩香の声も続いた。

「私は昨日カラオケに行っちゃった」

ふたりは、追い出しイベントのことを言っているらしかった。喜んでジュンビを始めているようで、発案者の由宇も嬉しくなる。

「わー、楽しみ。みんなでがんばろうね」

スキップをふみそうになったが、次の彩香のひとことには足がぴたっと止まった。

「由宇ちゃんのお父さんに、レースをいっぱいつけてもらうんだ」

「私の、お父さんに？」

「うん。衣装は由宇ちゃんのお父さんが作ってくれるんでしょ？」

「プロが作ってくれるんだから、きつとすてきなドレスになるでしょうね」

「ちよっと、待ってよ」

由宇は思わず叫んだ。

「お父さんが作ってくれるなんて、私は言っていないよ」

「え、そうだっけ？」

抗議する由宇に、ふたりはまた顔を見合わせる。

「うちのミシンを使えばって言ったただけだよ」

あせって間違いを正すと、

「そうだったっけ。でも、前も由宇ちゃんちで、お父さんに教えてもらったよね」

南は笑顔にもどった。家庭科でリュックを作ったときに、南は由宇の家に来て、お父さんに教わったのだ。

「だから今度も大丈夫よ。きつとすてきなができるわよ。だって、由宇ちゃんのお父さんは、プロだもの。イエーイ」

「そうそう。すごく腕がいいってうわさだもんね。イエーイ」

ふたりはハイタッチをした。

「腕がいいのはうわさじゃなくて、事実だけど」

由宇は、その点だけを訂正するのがやっとだった。

その日、学校から帰った由宇は、さっそくお父さんに、お店のミシンを使わせてもらえないかと頼んだ。が、返ってきた返事は、思ってもみないものだった。

「できないよ、それは」

お父さんはミシンを止めて顔を上げ、思いつきりまゆをよせた。

「だってリュックのときは貸してくれたじゃない」

由宇は言ってみたが、

「あのときは余裕があったけど、今は無理だ」

お父さんは首をふるると、作業にもどった。タタタタッと、ミシンの音が力強くひびく。

由宇は作業場を見回してみた。なるほど作業台には、たくさんのカバンが積み重なっている。修理の仕事が立てこられているのだろう。壁にはスケジュールを示すためのホワイトボードがかけられているが、予定がびっちり書きこまれている。お客さんにわたす、納期も迫っているようだ。

状況はわかったが、由宇はあきらめるわけにはいかなかった。みんなあんなに楽しみにしているのだ。それに帰りに、ルイと先生からこうも言われた。

「六年生に話したら、期待してたぞ」

「ミュージカルはむずかしいけど、きつと三島さんならできると思うわ」

なんとしても成功させなくてはいけない。

「そこをなんとかならないかな」

タタタタッ。

「お世話になった六年生を送る会なの。心をこめてやりたいの」

タタタタッ。

「配達とか家のこととか、私も手伝うからさ」

タタタタッ。

どんなに頼んでも、ミシンの音しか返ってこず、由宇はほったたをふくらませた。

「本当は私に意地悪してるんでしょう。おじいちゃんの家に行ってから、お父さんはずっといららしてるし」

と、ぴたっとミシンの音が止まった。お父さんが顔を上げる。

「そんなことは関係ない」

ぴゅっと、輪ゴムでつぼうが飛んできたかと思ったが、お父さんの声だった。

「由宇、見てわかるだろ？ 今は忙しくて無理なんだよ」

お父さんは作業台をぐるりと見やった。

「だいたい、そんな大風呂敷を広げちゃいけないんだよ」

「おおぶろしき？」

「そうだ。」

「ってことだ。実際にやることは、頭で考えるよりもずっとむずかしいんだよ。けつきよく、人をふり回して迷惑をかけるだけってことになるんだ。そんな大風呂敷を広げるのは、どこかの政治家だけにしてくれよ」

お父さんは投げ捨てるように言った。

それからの数日は、由宇にとって暗い沼地をはずぼすぼと歩くようなものだった。お父さんから断られた次の日、学校で南に店のミシンが使えないことを言うと、とてもがっかりされた。彩香にしてもそうだった。

「家庭科室のミシンを使って作ろうよ」

と言ってみたけれど、ふたりの返事には元気がなかった。

「えーっ」

「できるかなあ」

ふたりの気分が下がったのが伝わったのか、なんとなくクラスじゅうのテンションも下がってしまった。あんなに盛り上がっていたのに、追出しイベントの話をする人がいなくなり、由宇は自分に対するみんなの態度が、どこかよそよそしくなったのを感じた。

それでも由宇はあきらめられたわけではなかった。六年生も楽しみにしているし、先生から期待もされている。

家庭科室を毎日貸してもらえるように、先生に頼んでみた。他のクラスの家庭科クラブの人に手伝ってほしいと持ちかけた。けれども、どれもうまくいかず、けつきよく出し物は、ガッショウとリコーダー演奏に変更されることになった。衣装の問題だけでなく、ミュージカルをするにはとても時間が足りそうになかったからだ。

「追出しイベントでは、ガッショウとリコーダーの演奏をすることにします」

学級会で由宇が言うと、

「ちえ、せっかくだしい感じで見得が切れるようになったのに」

勇太はがっくりと肩をすぼめ、光大は、

「最初からそうしとけばよかったんだよ」

と、迷惑そうな声を出した。先生も残念そうだった。

たくさんの人の期待を裏切ってしまう、由宇は顔が上げられなかった。そこにとどめを刺したのがルイの耳打ちだった。

「佐藤さん、台本書いてたらしいよ」

「へ？ 台本？」

桃子に台本を頼んだことなど、すっかり忘れていたのだ。すぐに教壇の上からさがすと、桃子は複雑そうな顔で由宇を見ていた。そのとたん、まざまざと記憶がもどってきて、由宇は青ざめた。

<sup>(3)</sup> なんとかふん張っていた足から力がぬけ、由宇はへなへなとその場にすわりこんでしまった。

国語問題

(九枚のうちの六枚め)

「三島さん？」

「大丈夫？」

先生がかけより、ルイも腕を取ってくれたが、長い間歩いていた沼に沈んでしまったような気分だった。「実際にやることは、頭で考えるよりもずっとむずかしいんだよ。けつきよく、人をふり回して迷惑をかけるだけのことになるんだ」

耳の奥では、お父さんの言葉が耳鳴りのようにこだましていた。

(まはら三桃「三島由宇、当選確実！」による)

問一 〓 線部①・③のカタカナを漢字に直し、②の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 〓 線部(1)とありますが、

(I) それはどのような行事ですか。本文中から七字で抜き出して答えなさい。

(II) このイベントに関して由宇はどのようなことを発案したのですか。簡潔に答えなさい。

問三 〓 線部A～Cとありますが、ここから読み取れる心情を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 悔しさ      イ 不快      ウ 失望      エ 申し訳なさ      オ 驚き

問四 〓 線部(2)とありますが、どのような状況ですか。わかりやすく説明しなさい。

問五 本文中の□に入れるのに最も適当な表現を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分ができないことをごまかそうとしちゃいけない  
 イ 頼まれたことを人に押しつけちゃいけない  
 ウ やれもしないことを簡単に引き受けちゃいけない  
 エ 何でも自分一人だけでやろうとしちゃいけない

問六 〓 線部(3)とありますが、由宇がこのようになったのはなぜですか。説明しなさい。

問七 本文中の人物について説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 彩香と南は楽しいことには積極的に関わろうとするが、面倒なことは人任せにする無責任なところがある。  
 イ 由宇は自分の考えを強引に押しつけるところがあり、やる気のない周囲の対応にいらだちを感じている。  
 ウ 桃子はおとなしく自分の意見を主張できない性格のため、学級委員である由宇には逆らえないでいる。  
 エ 父は内心では由宇を応援しているが、娘のためにあえて冷たい態度を取るなど、しつけにとっても厳しい。

問八 本文の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 会話を多用することでテンポよく場面が展開され、着々と用意を進めていくクラスの様子が描かれている。  
 イ 繰り返し出てくるミシンの音には、由宇の呼びかけを無視する父の拒絶の気持ちが暗示されている。  
 ウ 沼を用いた比喻によって、困難に直面しても諦めず前に進むとすることで由宇のひたむきさが表現されている。  
 エ 由宇だけでなく父の視点からも描かれることで、登場人物それぞれの思いがわかりやすく示されている。

三 次の各問いに答えなさい。

(I) 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今までの慣例を壊していくと必ず、後ろ指をさされたり、批判されたりする。どんないいことでも必ず一割ぐらいは水をかけてくる人達がいる。後ろ指をさされても気にしない。それが人間というものだと、初めから割り切っている。ぼく達の国は民主主義の国だから、いいのだ。どんなにいいことをしても、批判をする人がいていい。だが、その口を封じてはいけないのだ。

打たれ強い出る杭になることが、今の日本で生きていくためには大事。

仕事も恋愛も結婚も、みんな好きなようにやればいい。どうせ、いろいろ言う人はいる。気にしないことだ。腐った空気の中で空気を読み合っていれば、自分も腐ってしまう。腐らないことが大事。

パキスタンのマララさんは、打たれても打たれても、美しく、強く、あつたかくて、優しい、そして、かつこいい、見事な出る杭になっている。16歳の女の子だって、できるんだ。あなたも必ず、打たれ強い出る杭になれる。

人間は見栄っ張りな生き物だ。いつも自分を装っている。だから打たれたくない。打たれる姿なんか人に見せたくない。

打たれた時の弱さも、つらさも、さらけだしてしまえばいい。杭は徐々にたくましくなり、打たれても打たれても、負けない杭になる。

「別解力」のある生き方や、△に生きる生き方は、一つのイズム注に自分をがんじがらめにしない生き方である。がんばるだけでは、もろくて、壊れやすい。ところどころ、がんばらない生き方をしていると、ガラス細工のようではなく、鋼はがねのように、柔らかで強い「新しい人間」になる。

自分にこだわる生き方は、自立していないといけないと思いがちだが、どっこい違ちがうのである。誰かに寄りかかる勇気をぼくはいつも持っている。寄りかかり名人だ。甘え上手と、ぼくのことを、親友で画家の原田泰治はらだたいじさんはよく言う。

自分でもそう思う。確かに、甘え上手で人に大事にされて生きてきた。でもここでも、もう一つの「別解」をぼくが持っていることが大事なんだ。寄りかかってきた人がきたら、踏ん張ふんばって、支えてあげる力持ちなんだ。

ぼくが寄りかかるだけの人だったら、一度は寄りかからせてもらっても、そう長く、何度も寄りかからせてはくれないだろう。寄りかかったり寄りかかられたり。これが△の生き方だ。

(鎌田實「○に近い△を生きる」による)

注 イズム…主義。主張。

問一 —— 線部について

(1) 「出る杭は打たれる」ということわざがありますが、その意味を示している一文を本文中から探し、最初の五字を抜き出して答えなさい。

(2) 「打たれ強い出る杭になる」ためにどのようなことが必要だと筆者は述べていますか。それを説明した次の文の A・B に入れるのに適当な表現を、本文中の言葉を使って答えなさい。ただし、A・B はともに十五字以内とします。

何かに取り組むときには A ことと、見栄を張らず自分の B ことが必要である。

国語問題

(九枚のうちの八枚め)

問二 筆者が良いと考えている生き方にあてはまらないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 失敗した時に落ち込まないように、どんなことにも前もって逃げ道を用意しておく。
- イ 人に頼ることをためらわず、自分もいざとなれば相手を助けられる力を持つておく。
- ウ 人に笑われ恥をかくことを恐れず、自分を取り組みたいことに前向きに挑戦する。
- エ できるところまで努力し、うまくいかない時は柔軟に対応して別の方法を考える。

(Ⅱ) 次の小問に答えなさい。

問一 次の文字を組み合わせて漢字を三つ作りなさい。ただし、それぞれの文字は一回しか使えません。なお必要に応じて(例)のように文字の形を変えてもかまいません。

(例) 手 + 寺 ↓ 持

人	糸	石	山
田	言	木	

問二 次の会話文の中で、敬語の使い方として誤っているものを二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- 先生「達也くん、朝食をしっかりと食べましたか。」  
達也「はい。召し上がりました。」  
先生「では今日のテストも大丈夫そうですね。」  
達也「はい。以前職員室にうかがった時、先生からアドバイスをいただいたので、それをもとにしっかりと勉強もしています。」  
先生「それは頼もしいですね。」  
達也「母も期待しているとおっしゃっていたので頑張ります。」

問三 次の文中の□には体の部位を表す漢字一字が入ります。あてはまる漢字をそれぞれ答えなさい。

- ① 兄の話を聞いて思わず□を疑った。
- ② 飼い犬のいたずらには家族全員が□を焼いている。
- ③ 彼の身勝手な行動に□の虫が治まらない。

